

私たちに期待される現場力

1. はじめに

昨年末からの記録的なゲリラ豪雪や新燃岳の噴火など数々の災害、さらには、高齢化する施設の維持管理など、待ったなしの対応が求められています。行政の現場を預かる技術者の方々のご苦勞に心から敬意を表したいと思います。

国土インフラは、国民の安全確保、経済成長の基盤です。厳しい財政状況のもと、今後の効率的な整備、管理のあり方と同時に、それを担う私たち技術者の資質、技術力も問われています。そもそも私たちの仕事は、基本的に現場があり、常に具体的です。現場と直接対峙する業務からプロジェクト全体のマネジメントまで広範に渡りますが、机上のみでは決して語れない仕事です。

私たちが期待される使命を果たし、国民から信頼される技術者となるためには、常に現場の視点を忘れずに行動することが求められています。

2. 基本的な仕事の進め方

国土を守り、よき国土をつくることが私たちのミッションです。これは、何十年、何百年オーダーの仕事です。将来の世代にとって必要なもの、そのために今やらねばならないもの、つまり、中長期的な時間軸の中で必要なインフラは何か、優先順位をどうすべきかについて、冷静に評価、判断できる技術力が必要です。

また、的確な意思決定には、正確な現場の情報把握が大切で、「悪い情報ほど早く上げる」という風通しのよさが不可欠です。判断までの時間的余裕があることで、選択肢の幅が広がりますし、解決に向けて多くの人々の知恵を動員することができます。現場を取り巻く環境は複雑で、答えは一つではありません。百点の答えもありません。「どうしましょうか」でなく、複数の選択肢の中から利害得失を考慮したうえで、こうすべきであると上司に提案できる技術力が求められています。

さらに、インフラの整備にあたっては、最終的にその是非を判断する国民の視点に立って、整備効果と個人生活との結び付き、すなわち、「受け手が求める情報」とは何かを常に意識した説明が必要です。例えば、その事業はいつ完成し、その結果、あなたの生活はこう変わりますといった納税者一人ひとりの生活とのかかわりをもって説明していくことが非常に重要です。広域的なインフラほど、個人レベルの満足と社会トータルの満足との関係を如何に説明していくかが現場では求められています。

3. 原点に立ち返った仕組みづくり

「国民ニーズに基づき、品質のよい社会資本を適正な価格で調達する」という、いわゆる発注者責任の理念に則り、総合評価落札方式などの仕組み

国土交通省 大臣官房 技術審議官

ふか さわ
深澤
あつ し
淳志



が本格的に導入されてきました。しかし、制度の導入自体が目的になってはいないでしょうか。本来問うべきは、現場における最終的な成果物の品質です。加えて、複雑化した制度の手続きの簡素化等についても不断の改善が必要です。

官民の役割分担に関して言えば、行政における技術者の原点は、信頼される国民の代理人として責任を全うすることです。求められるインフラの確定、相応しい企業の選定、最終的な検収業務など、官側技術者として本来責任を負うべき業務については、歯を食いしばってでも、自ら実施できる技術力を保持すべきだと思います。一方、地域主権の議論の中で、国と地方の役割分担も問われています。その際留意すべきは、主権者は、あくまでも「国民」であり、主役である国民・利用者の視点、現場の視点からみて相応しい役割分担を目指すことではないでしょうか。

さらに、昨今の頻発する災害を教訓に、現場の管理体制についても原点に戻った再検討が必要です。官側の体制や委託契約のあり方などを含め、常日頃からの備えをしっかりしたいものです。現場技術力が試されています。

4. 心構えと人づくり

経済・社会の変化のスピードは益々加速しています。また、現場は常に変化し、マニュアルでは

解決できない課題が山積しています。「前例がない」とは言わず、柔軟な考え方や幅広い知識、視野で変化に敏感であってほしいと思います。さらには、自分の専門分野に逃げ込まず、幅広い知識や能力を養ってください。幸いにも「知恵は現場に転がっています」。

自己研鑽に関しては、今回の特集である資格の取得も大変有効だと思います。取得自体の意義に加え、その取得過程における経験も貴重です。私自身も、かつて資格取得に向けた勉強を通じて、普段は見逃していた情報にも敏感になり、多くのことを体系的に学び直すことができました。

5. おわりに

社会の仕組みが大きく変化する中で、よい国土を次の世代に残すことが私たちの仕事です。「社会が求めていることは具体的に何か」、「それを実現するために私たちは何をすべきか」、「そのために今とるべき行動は何か」を常に考えつつ、現場主義に立ち、建設技術者としての自信と気概をもって一緒に頑張りましょう。

なお、本稿の提出後、東北地方を中心とした巨大な地震と津波による未曾有の災害が発生しました。復興は長期戦になると思います。全国の建設技術者の連携のもと、現場の第一線の皆さんの一層のご奮闘を期待しています。